

## 「俺は老人じゃない！」

～入所を余儀なくされて7年経過、振り返りとこれから～

特別養護老人ホーム  
ぬまづホーム

蒲生義之・野口寿志

## はじめに

- ・入所時55歳と若くして入所を余儀なくされてから7年が経過した。
- ・入所時は施設を受け入れていなかったが、現在、施設に慣れ、役割を見つけながら生活している。

その背景にある心境の変化が何であったのか？

## 施設紹介・特徴

- 現在(平成26年6月)
- ・平均年齢 82.9歳  
(女性の割合 約8割)
  - ・平均介護度 4.09

### 特徴

- ・認知症が全体の9割を占めている。
- ・特養70床のうち、個室15床と多床室を組み合わせ5ユニットで個別ケアに視点を置くとともに、介護労働環境改善の一つとして、持ち上げない介護を取り入れている。

## ご利用者紹介(入所当時のK様)

- ・要介護度 2
- ・脳内出血による右片麻痺、失語症。
- ・胃ろう造設していたが回復期リハ病院で抜去し、経口摂取可能。
- ・「施設を出て自分で生活したい。」との思いが強く、施設への入所を受け入れていない。

## これまでの取り組み・・・

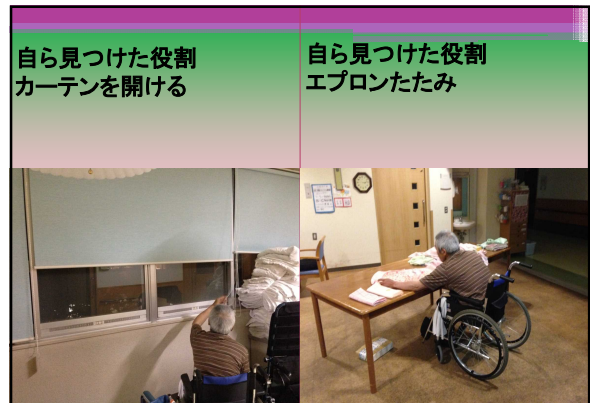
- ・リハビリ(歩行訓練・言語訓練)
- ・気分転換での外出
- ・ご本人が自ら見つけた役割を行うための支援
- ・ご本人の意向に添えるように自由な生活の場を提供

## リハビリ風景 歩行訓練



## リハビリ風景 言語訓練





ご利用者K様のインタビュー

- ・意識の変化と満足度
- ・希望及び思いを聞く
- ・職員との思いとご本人の思いとの違いがあるのかどうか？

を目的として実施した。

インタビューを行っての返答・・・

- ・入所時は現実を受け入れられずにいたが、今は自分の現状を理解し受け入れている。
- ・今現在も変わらず施設を出て、自分で生活したい。
- ・リハビリは、今後の為に必要だと思っている。
- ・やりたいことはあるけど、話しても無駄だと話す前に結論づけていた。
- ・自らできることを探して役割を見出し、生活リズムをつくっている。
- ・一日で一番好きな時間は、一日の終わりの寛ぎの時間より、植木(花)への水やりの時間の方が好き。
- ・「言っても無駄だと思って言わなかったけど、これからは言うよ。」

## 結果

ご利用者K様より、「言っても無駄だと思って言わなかったけど、これからは言うよ。」と言う言葉を聞くことができた。ご本人とより深い関係を築くことができたと思う。

## おわりに

・ひとり、一人のご利用者と向き合うことの必要性及び大切さをより深く知ることができた。これからも時間をかけて向き合うことで、より深い信頼関係ができると思う。介護者、ご利用者双方の喜び、楽しみが未来の介護を支える力になることを確信した。